

令和2年度山陽小野田市地域包括支援センター運営協議会（第1回）意見の概要と市の考え方

項目	意見の概要	市の考え方、今後の対応
<p>(1) 地域包括支援センターの事業評価における全国集計について (資料2)</p>	<p>「業務チェックシート」において、「該当しないもの×」がついた項目については必ずしも「該当するもの○」にしなければならないとは思いませんが、今後「○」となるよう努力、取り組む項目はありますか？特に全国調査結果で66%以上のものについては必要かどうかの検討をすることも有益だと思います。</p> <p>地域ケア会議の課題があるようですが実際の内容を踏まえて山陽小野田市の取り組みの必要性を考えてみたらと思います。</p> <p>(4)-44の地域課題に関する検討ができていないようになっていきます。ぜひ今年度地域課題に対する取組みや情報の周知ができる体制をお願いしたいと思います。</p> <p>この結果を受けて何か具体的な取り組みの予定等はあるのでしょうか。</p> <p>地域ケア会議については、医師が参加しやすい工夫が必要かと思えます。</p> <p>平日以外の窓口設置の予定はありますか。</p>	<p>該当しなかった項目のうち、課題として地域ケア会議の改善に取り組みました。今年度は計画を記載した実施要項を作成し、それらを地域包括支援センター職員や会議参加者等に共有しています。また、地域課題に関しても、在宅医療・介護連携推進協議会や高齢者保健福祉推進会議等で協議しています。今後は、地域課題を解決するための政策提言について取り組むなど、業務の改善に努めていきたいと考えています。</p> <p>現在、地域ケア会議については平日の日中開催のため、医師の参加が難しい状況ですが、今後多様な職種が参加できるような開催方法についても検討していきたいと思えます。</p> <p>営業時間は平日のみですが、緊急時など平日以外でも対応できるような体制をとっており、ホームページ等で周知しているところです。</p>
<p>(2) 令和2年度山陽小野田市地域包括支援センター事業計画について (資料3、4)</p>	<p>地域ケア会議で地域の課題を把握、解決するための仕組みづくりを推進していくとあります。(1)と関連しています。社協、民生委員、自治会とのつながりをもって、具体的なイメージを持って、形にしていけるとよいと思えます。(生活支援体制整備、在宅医療介護連携推進事業とも関連)⇒(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 (4)在宅医療・介護連携推進事業 (5)生活支援体制整備事業 (7)地域ケア会議推進事業 3多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築などのそれぞれの毎回の会議・会合を”仕組みづくり”の方向性をもって継続・検証することが必要かと(中長期的計画)</p> <p>「5、指定介護予防支援」で、件数が平成30年度に対して大幅増(129%)となっています。月平均件数でみると420件となり、平成30年度327件/日、令和元年度(4~7月実績)では348件/日であり、大幅増の要因が何かあるのでしょうか。</p>	<p>地域ケア会議の地域課題把握・解決機能は、生活支援体制整備事業における協議体や、在宅医療・介護連携推進事業における多職種研修会などにもあります。ご指摘のように、それぞれの事業や会議が地域包括ケアシステムの充実に向けた多職種協働の場としてうまく機能していくよう、仕組みづくりに取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>令和2年度の件数は、第7期高齢者福祉計画の見込み数を基にしています。平成30年度以降は総合事業への移行のため、計画より下回る予想となっています。来年度は第8期高齢者福祉計画の策定となっていますので、実績を基に修正したいと考えています。</p>

<p>住み慣れた地域で最後まで暮らすことができることを誰もが願っているのではと考えます。これからは在宅医療や介護が必要になってくるのではないのでしょうか。家族の協力が大きくなって大変ですが、地域の方もサポートしていけたらと思います。</p>	<p>在宅医療・介護連携推進事業においては、できる限り住み慣れた地域で、人生の最後まで自分らしく暮らし続けることができるよう、医療と介護の連携強化に取り組んでいます。それと同時に、市民の皆さんへの普及啓発や支援も重要であると考えておりますので、今後も地域のニーズ把握や解決へ向けた取り組みを強化していきたいと思ひます。</p>
<p>地域に対する情報提供は？支援は？サービスは？どのように周知しているのか市民にはよく見えないのでは？市役所であった養成講座等をもっと近場で、公民館等に協力をいただき実施すると、地域での参加者が多くなると思ひます。</p>	<p>ホームページや窓口、様々な事業で地域包括支援センターの周知をしています。今後もよりわかりやすいように周知していきます。講座等も市民が参加しやすい開催方法を検討したいと思ひます。</p>
<p>資料4令和2年度当初予算について ①ページについて P33～38までは良いのですが、次がP40P39となっていますが綴じ方の間違えてしょうか。 ②P33は本来この資料には必要ないのでは？P39が必要な資料ではないでしょうか疑問に思ひしたので記載しました。</p>	<p>御指摘の通りです。39ページと40ページの綴じ方が間違えておりました。33ページは、「介護予防マネジメント」「一般介護予防業務」が包括の業務ですので、掲載しています。39ページに斜線をしてありますが、必要な情報ですので訂正してお詫びします。</p>
<p>(3) 令和2年度認知症初期集中支援チーム活動計画について (資料5)</p>	<p>ホームページや窓口、様々な事業で認知症初期集中支援チームの周知をしています。まだ十分とは言えない状況であると思ひますので、今後も普及啓発に力を入れ、気軽に相談していただけるよう努めたいと思ひます。</p>
<p>支援チームの存在の市民への周知が必要だと思ひます。</p>	
<p>これまで運営委員会のたびに活動報告があったような気がしますが、昨年度第2回運営委員会（認知症初期集中支援チーム検討委員会/令和元年11月14日）以降の活動報告が必要なのではないのでしょうか。</p>	<p>今年度より、第1回目に事業計画や活動計画を行い、第2回目に昨年度の実績報告を行うこととなりましたので、次回の運営協議会で報告を予定しております。</p>
<p>認知症初期集中支援チームに医師が含まれていることは心強いです。相談・助言がいただけると思ひますが、他に”こんな役割”があればご回答ください。</p>	<p>現在は、定期的にチーム員会議を行っています。初回訪問後、支援対象者ごとに、支援の方針及び役割の確認、支援開始後の状況の変化や緊急時の連絡体制の確認、支援目標（ゴール）の決定などの検討を行います。医療サービスを受けておられない対象者もおられるため、医師から専門的な助言をもらうことは、支援を行う上でとても役立っています。</p>
<p>事業目的について、「本人の意思が尊重され」とあるが言葉や文章では必要があると思ひますが、本人はその場限りであまり意識があると思ひえない。（調査時は緊張するようです）その家族数名が関わり対応していますが、本人よりも家族に寄り添って支援体制を願ひます。</p>	<p>介護保険法の基本理念であります「自立支援」に基づき対応していますが、本人の意思が確認できない場合においても、できる限り本人の意向を尊重した支援が行えるよう、ご家族ともよくお話をしながら支援を進めてまいります。</p>

	<p>過去にどのような活動がされていたのか知りたいです。もしくはこれからの具体的な活動内容。</p>	<p>昨年活動したケースについて紹介します。妻に対して、暴言・暴力を繰り返し、毎日4～5時間ドライブを強要する高齢者に対して ①チーム員が自宅を訪問し本人と妻から生活状況を聞き取り ②1週間、午前9時と午後5時に訪問し実際の外出状況を確認 ③民生委員にこれまでの生活歴や地域とのかかわりについて確認 ④かかりつけ内科医に現在の状況を伝え、専門医への受診勧奨と家族への協力依頼をしたことで、本人と妻を取り巻く支援体制が整いつつあった。しかしその直後、本人が体調を崩し入院し、急逝したため、支援終了となった。</p>
<p>(4) 意見・評価</p>	<p>在宅生活者の支援が第一の業務内容だと理解していますが、在宅介護で困難になった方が施設に入所されます。特に認知症状（周辺症状）が強い方の中にはケアだけで軽減できる方ばかりでなく、その対応に苦慮する方があります。総合的・客観的見地から施設介護支援専門員（ケアプラン）のサポートをする機会があるとよい。市内の介護力がアップすると思います。</p>	<p>ケアマネジャーに対しては、地域ケア会議やケアマネジャー連絡会を通してケアマネジメントへの支援をしています。施設のケアマネジャーの方も参加できるよう今後も周知してまいります。</p>
	<p>協働性の視点、包括的ケアマネジメント支援業務をすることとなっているので、困難性を感じ相談に行くときには迅速に対応していただき、情報共有や助言、支援をお願いし、市のケアマネの質の向上を一定にできるように希望します。</p>	<p>地域のケアマネジャーが抱える支援困難事例の相談窓口としてそれぞれのケアマネジャーごとに対する適切に支援を行うとともに、ケアマネジャーの資質向上のための研修の実施など行う中で、地域のケアマネジャーの質の向上の支援に努めたいと思います。</p>
	<p>住宅改修における合見積もりについては、現実には難しい状況があります。包括の担当者の方々はどのようにして相見積もりをとっておられますか。その方法等ご助言をお願いします。</p>	<p>複数見積もりの必要性については、利用者保護や給付の適正化を目的として、H30年7月に住宅改修費の支給について一部改正があり、ケアマネジャーは、「複数の住宅改修の事業者から見積もりをとるよう、利用者に対して説明すること」とされています。この通知に基づき、地域包括支援センター職員も、相見積もりを行うことについて利用者へ説明を行っているところです。なお、説明した上で、利用者の判断等の理由により1者のみの見積もりしかとらない場合もあります。</p>
	<p>医師会研修会などで活動状況などを発表されると良いかもしれませんが。残念ながら今年はコロナで中止になりましたので、来年以降になります。</p>	<p>御意見を参考に、検討してまいります。</p>
	<p>・地域包括支援センター サブ名称”高齢者何でも相談”説明しづらいしなかなか分かってもらえない。「市役所に入って左側の一番奥のあたりにあるよ〜…」 ・高齢者調査票の活用 調査票を見ながら包括の方、ケアマネさんと話す機会を作っていただきたい。（アドバイスをしてほしい）調査期間は訪問できる絶好のチャンスと思い毎年工夫しています。調査対象者でない子供さんと二人暮らしの高齢者にも訪問するようにしています。 ・訪問デー 気にかかる方が多くなり、訪問・電話等を活用しお話ができたらシールを貼っています。包括の方と一緒に訪問すると安心感になります。 ・その他 地域包括の方が日頃どんな動きをされているのか、担当区域をどのように把握されているのか教えていただきたい。いきいき百歳体操の場に何度も来てくださり、行政との間が身近になっているように感じます。</p>	<p>地域包括支援センターの名称については、今後もさらなる周知に努めてまいりたいと思います。 高齢者実態調査では、様々な工夫をされながら訪問していただきありがとうございます。気になる方に対しては、担当のケアマネジャーへつなぐなども行っておりますので、お気軽に地域包括支援センターにお知らせいただければと思います。また、昨年度より民生委員とケアマネジャーとの合同研修を行い、顔の見える関係づくりを目指しています。 民生委員さんと一緒に訪問も行っておりますので、気にかかる方については、遠慮なくご相談ください。 地域包括支援センターでは、このような相談支援業務のほか、住み慣れた地域で暮らし続けるため、地域における介護予防の取組の支援なども行っています。地域を担当する職員がおり、地域への訪問のほか、民生委員さんをはじめ関係機関との連携の中で、地域の課題の把握に努めています。</p>

項目	意見の概要	市の考え方、今後の対応
<p>(1) 地域包括支援センターの事業評価における全国集計について (資料2)</p>	<p>山陽小野田市は権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援に評価が高いことを知りました。地域ケア会議の評価が低いことは意外でした。</p>	<p>—</p>
	<p>市（行政）に地域包括支援センターを設置している強み。市の医師会との連携が従前よりある強みがあることがわかります。 ※地域ケア会議の課題があるようですが実際の内容を踏まえて山陽小野田市の取り組みの必要性を考えてみたと思います。</p>	<p>—</p>
	<p>レーダーチャートを見まして、2-(1) 2-(4)だけが全国平均より低かったのですが、他はすべてよかったので評価は高いのではと考えます。（的確に記入できませんで申し訳ございません）</p>	<p>—</p>
	<p>チェックシートの字が小さくて少し読みづらい。センター指標の内容で職員が頑張り汗をかいている姿が見えるようです。ご苦労様です。</p>	<p>—</p>
	<p>初めて見る評価表でしたので、本来の会議の中で説明を聞くことができれば理解しやすかったのでしょうか。会議が中止になったのが残念です。</p>	<p>—</p>
<p>(2) 令和2年度山陽小野田市地域包括支援センター事業計画について (資料3、4)</p>	<p>住民運営通いの場や介護予防応援隊など住民活動が増えていること、見守りネット山陽小野田登録者数が1200人になっていることなどが住民に介護に対する関心が増えていると思いました。指定介護予防支援件数が増加しています。高齢化により今後ますます増加していくのではと個人的に思います。サービス事業所としてできるだけ協力できればと思います。</p>	<p>—</p>
	<p>住み慣れた地域で最後まで暮らすことができることを誰もが願っているのではと考えます。これからは在宅医療や介護が必要になってくるのではないのでしょうか。家族の協力が大きくなって大変ですが、地域の方もサポートしていけたらと思います。</p>	<p>—</p>
	<p>承認します。 特に問題ないと思います。</p>	<p>— —</p>
<p>(3) 令和2年度認知症初期集中支援チーム活動計画について (資料5)</p>	<p>歳をとれば誰もがなりやすい認知症。認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく過ごしたいと誰もが感じていると思います。そのためには早期の予防が大切です。サポーターさんの支援を受けながら百歳体操が長続きするよう頑張ろうと思います。これからも認知症に関するチラシやご指導をよろしくお願いします。</p>	<p>—</p>

	<p>認知症状の進行に伴い、徐々に対応が困難となるケースは多くあります。初期でなくてもどうしてもケアマネが抱え込む傾向がある中、このようなチームの存在は心強いものです。できればいつでも相談できるものであればなおよいと思います。</p>	—
	<p>私の立場で大切だと思い実践していることは、同居されていない子供さんと連絡を取り合えるよう努力していることです。地域でも上手にサポートできつつあります。</p>	—
(4) 意見・評価	<p>包括支援センターの活動に関して部分的にしか活動を理解できていませんでした。今回資料をいただき、様々な活動を発展させていることを知りました。委託契約事務所として、サービス事業所としてできることを考えていきたいと思います。また昨年、地域ケア会議（事例検討）に何回か参加させていただき、多職種の方と顔見知りになれたこと、様々な職種で包括的に援助ができるので連携をとりながら予防支援サービスを提供できることを知りました。今後も勉強させていただきたいと思います。</p>	—
	<p>新型コロナウイルスの感染が拡大しないようにと外出が自由にできなくなりました。その時送付していただいた自宅でできる簡単な体操、口の体操など時間の過ごし方に参考になったのではと思います。ありがとうございました。お礼の電話をしてくださった方もありました。これからも家で過ごす時間が多いと思いますので、ご指導よろしくお願ひします。</p>	—
	<p>意見等は別にありません。いつもよい事業計画です。ありがとうございます。</p>	—